

議題2：小牧市自殺対策計画について

1. 策定の経緯

日本の自殺者数は、平成10年（1998）年以降3万人を超える危機的な状態が続いていた。

平成18年 自殺対策基本法 制定

⇒これにより、国及び地方公共団体等に自殺対策の責務が生じた

国、地方公共団体、関係団体、民間団体等による様々な取組みの結果、年間自殺者数は減少傾向。

平成28年 自殺対策基本法改正

⇒「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指し、自殺対策を更に総合的かつ効果的に推進するため改正

- ・自殺対策が「生きることの包括的な支援」として実施されるべきこと等を基本理念に明記
- ・自殺対策の地域間格差を解消し、自殺対策に関する必要な支援を受けられるよう、全ての都道府県及び市町村が「自殺対策計画」を策定することが義務付けられた。

平成29年 自殺総合対策大綱改正

⇒・地域レベルでの実践的な取組みの更なる推進

- ・若者の自殺対策、勤務問題等による自殺対策の更なる推進
- ・自殺死亡率を先進諸国の現在の水準まで減少することを目指し、令和8年までに平成27年比30%以上減少させることを目標とすることを掲げる

平成31年3月 小牧市自殺対策計画策定

⇒計画期間は令和元年度から令和6年度までの6年間

2. 小牧市自殺対策計画

(1) 計画の目標

計画の目標は、本計画最終年度である令和6年までに、小牧市の自殺死亡率を平成27年の自殺死亡率23.4から17.7以下にすることが目標

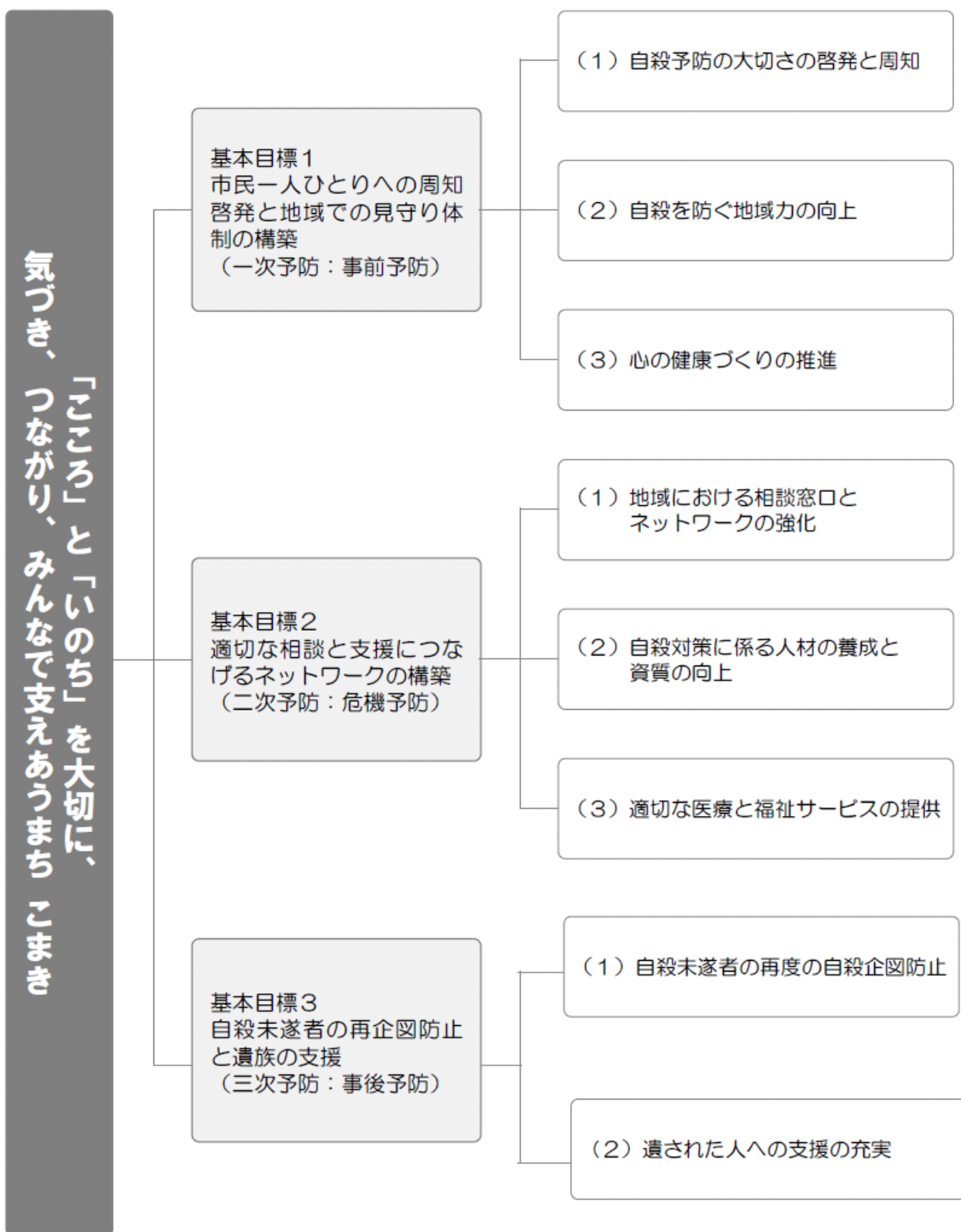
自殺死亡率の減少 (人口10万人対)	平成27年	令和4年	令和6年	令和8年
国	18.5	—	—	13.0以下 (平成27年から 30%減を目標)
愛知県	17.5	14.0以下	—	13.0以下
小牧市	23.4 (基準値)	—	17.7以下 (基準値から24.4%減)	16.4以下 (平成27年から 30%減を目標)

(2) 計画の基本理念と基本目標

【基本理念】


【基本目標】

【基本施策】




【重点取組】


●生と性のカリキュラムの推進

指標名	基準値 (平成 29 年度)	目指す方向性 (令和 6 年度)
「生と性のカリキュラム」の受講後「自分を大切にしよう」と思う中学生の割合	—	


●事業所等での「こころの健康」に関する出前講座

指標名	基準値 (平成 29 年度)	目指す方向性 (令和 6 年度)
事業所等での「こころの健康」に関する出前講座の実施回数	—	

●うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議

指標名	基準値 (平成 29 年度)	目指す方向性 (令和 6 年度)
うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議の開催回数	年 1 回	

●ゲートキーパーの養成

指標名	基準値 (平成 29 年度)	目指す方向性 (令和 6 年度)
ゲートキーパー養成講座受講者数	332 人	

(3) 計画策定あたって実施した「こころの健康に関する市民意識調査」からみえた小牧市の自殺対策における重点課題（小牧市自殺対策計画 51 ページ）

市民一人ひとりへの周知啓発と地域での見守り体制の構築

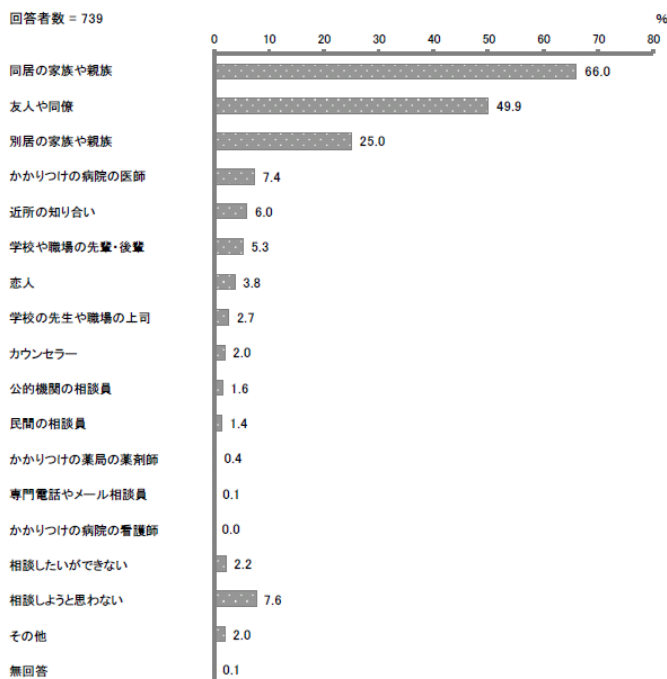
① 専門家や役所等の窓口を困ったときの相談先として活用する人は少ない傾向にある。

（小牧市自殺対策計画 29 ページ、31 ページ）

⑨ 不安や悩みやつらい気持ちがあるときの相談相手

「同居の家族や親族」の割合が66.0%と最も高く、次いで「友人や同僚」の割合が49.9%、「別居の家族や親族」の割合が25.0%となっています。

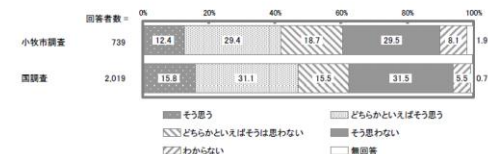
【図表 50】 不安や悩みやつらい気持ちがあるときの相談相手について



⑩ 悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるか

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた「そう思う」の割合が41.8%、「どちらかといえばそうは思わない」と「そう思わない」をあわせた「そう思わない」の割合が48.2%となっています。

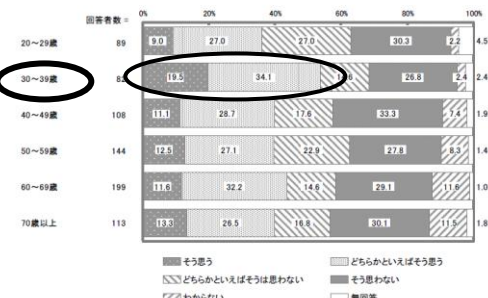
【図表 52】 誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるかについて



【年齢別】

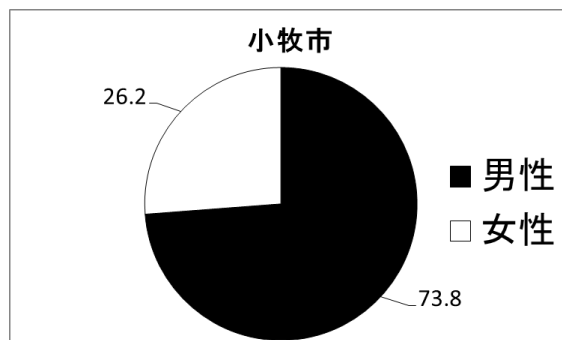
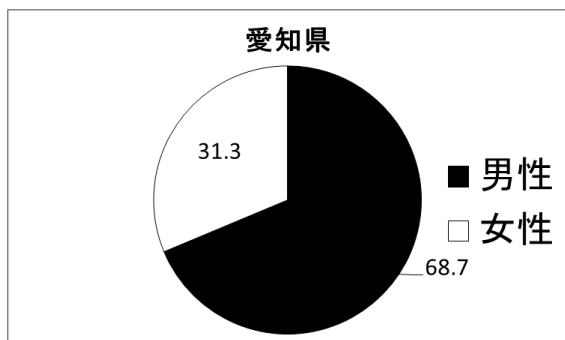
年齢別で見ると、30～39歳で「そう思う」の割合が高く、一方で、20～29歳で「そう思わない」の割合が高くなっています。

【図表 53】 誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるかについて（年齢別）



② 小牧市の男性の自殺率は平成 21 年から平成 28 年の累計で見ると、愛知県と比べ高い傾向にあり、特に働き盛りである男性 30 歳代、40 歳代が高い。

（小牧市自殺対策計画 12 ページ～14 ページ）

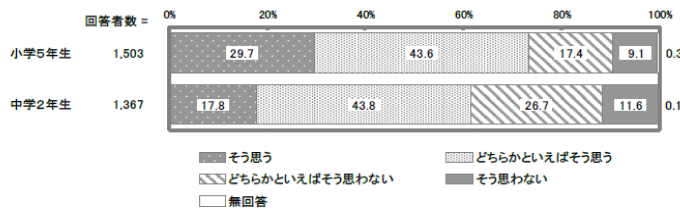


③子どもや青少年については、自己肯定感が低い傾向があることや、いじめや不登校、スマートフォン等を用いたSNSへの過度の依存など多岐にわたった問題が生じている。
(小牧市自殺対策計画 48 ページ)

① 今の自分を好きといえるか

中学2年生は、小学5年生に比べ、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、小学5年生より中学2年生の方が、自己肯定感が低くなっている傾向にあります。

【図表 77】 今の自分を好きといえるかについて（学年別）



資料：市民意識調査（平成29（2017）年実施）

④60歳以上の自殺率が愛知県と同様に高くなっている。
(小牧市自殺対策計画 12 ページ)

【図表 10】 年代別自殺者数（愛知県）

（平成21（2009）年～平成28（2016）年）

年代別	自殺者数（人）	割合（%）
～19歳	290	2.5
20～29歳	1,396	11.8
30～39歳	1,766	14.9
40～49歳	2,113	17.9
50～59歳	1,864	15.8
60～69歳	1,969	16.6
70～79歳	1,481	12.5
80歳以上	946	8.0
不詳	6	0.1

1
3
2

【図表 12】 年代別自殺者数（小牧市）

（平成21（2009）年～平成28（2016）年）

年代別	自殺者数（人）	割合（%）
～19歳	6	2.3
20～29歳	21	8.2
30～39歳	48	18.8
40～49歳	52	20.3
50～59歳	34	13.3
60～69歳	40	15.6
70～79歳	31	12.1
80歳以上	23	9.0
不詳	1	0.4

2
1
3

適切な相談と支援につなげるネットワークの構築

①自殺の原因・動機別者数をみると、男女ともに県と同様に健康問題が高くなっており、続いて男性では経済・生活問題、女性では家庭問題が高い。

(小牧市自殺対策計画 16、17 ページ)

【図表 24】 自殺の原因・動機別（複数回答あり）（小牧市男性）

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	計
家庭問題	3	6	5	8	3	4	8	1	38
健康問題	13	9	9	11	10	19	14	7	92
経済・生活問題	3	16	8	5	8	7	11	6	61
勤務問題	1	4	4	1	6	2	2	6	26
男女問題	1	0	3	2	1	3	1	0	11
学校問題	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	1	1	0	1	0	1	5
不詳	5	4	8	2	1	3	1	0	24
計	27	39	39	30	29	39	37	18	258

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

【図表 26】 自殺の原因・動機別（複数回答あり）（小牧市女性）

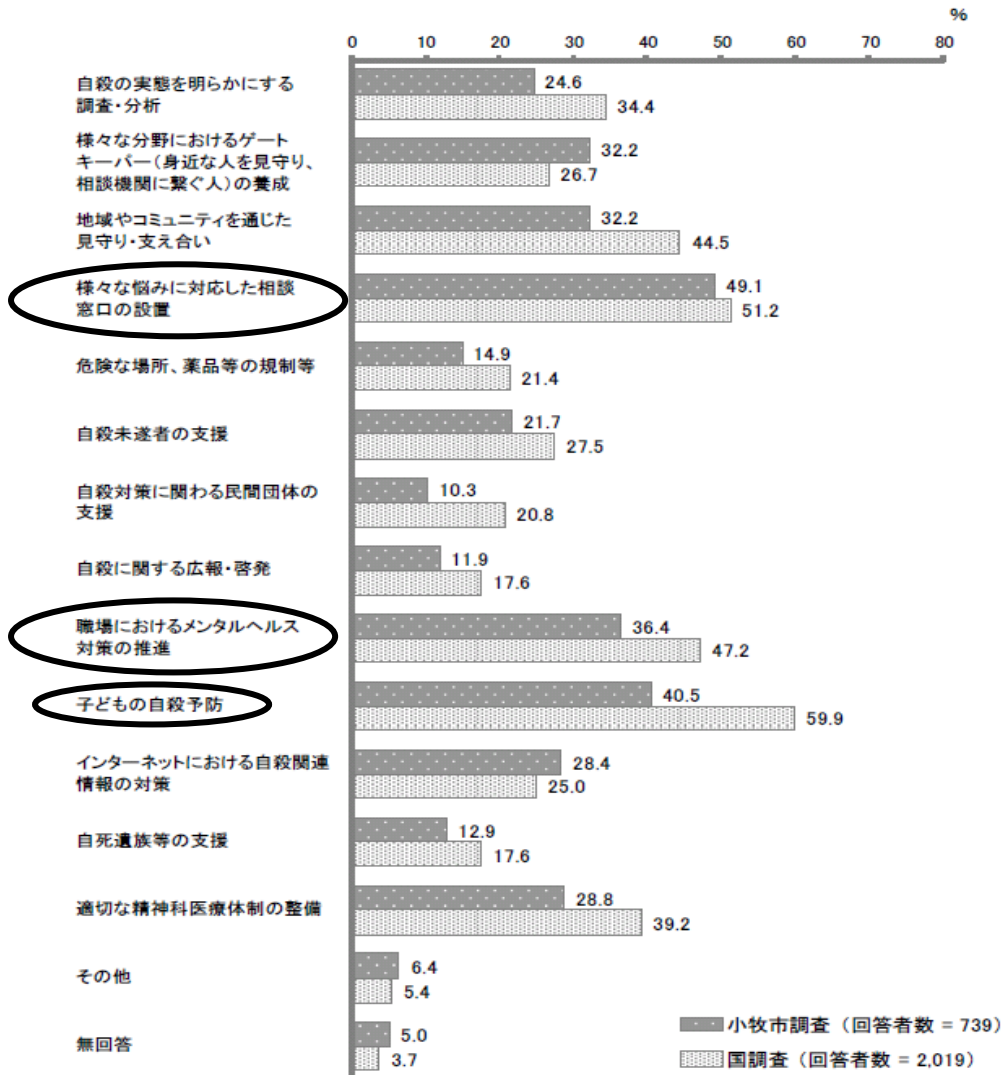
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	計
家庭問題	1	1	1	7	0	1	3	1	15
健康問題	9	10	9	4	4	10	11	10	67
経済・生活問題	0	1	1	0	0	1	2	1	6
勤務問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男女問題	0	1	0	1	0	0	1	0	3
学校問題	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	0	3	0	0	0	0	0	0	3
不詳	0	2	0	0	0	0	0	0	2
計	10	18	11	12	4	12	18	12	97

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

②今後求められる自殺対策として、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」「子どもの自殺予防」「職場におけるメンタルヘルス」などが挙げられている。

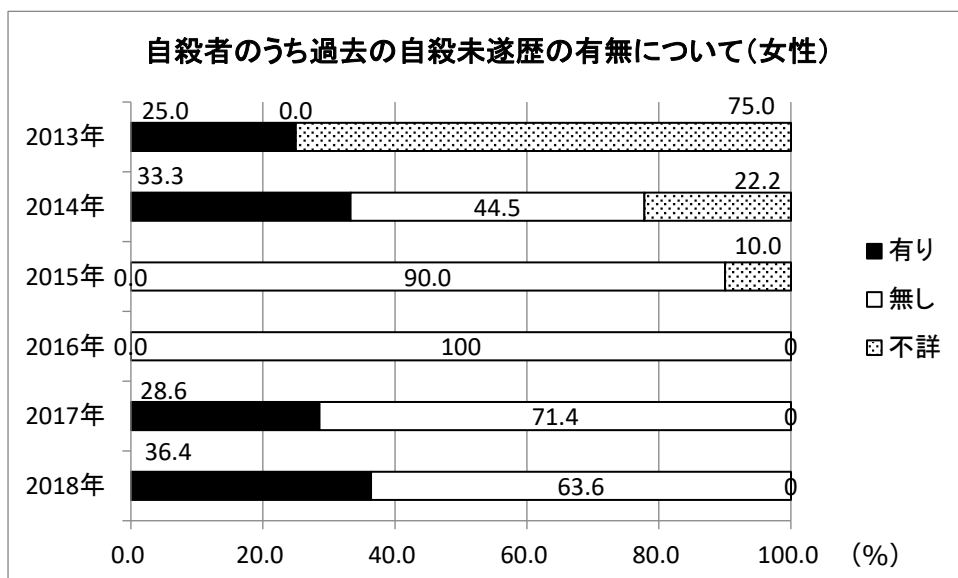
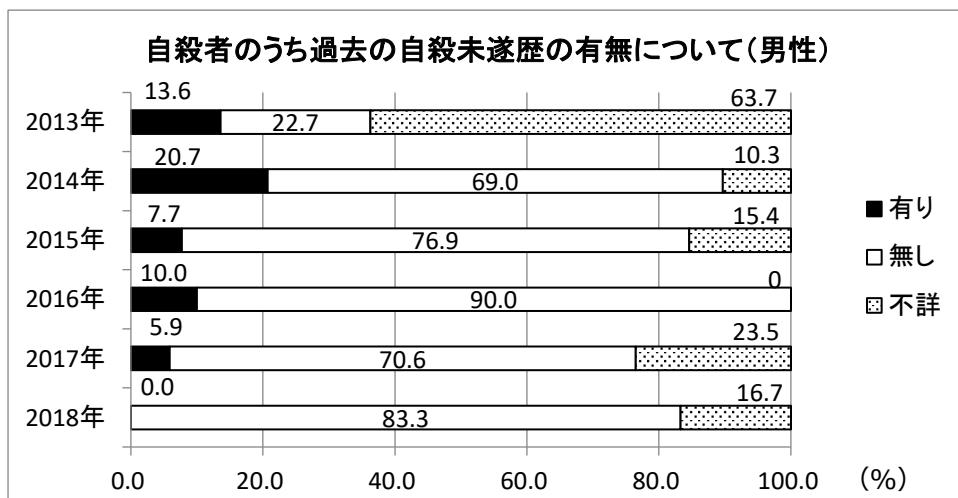
(小牧市自殺対策計画 43 ページ)

【図表 74】 今後求められる自殺対策について



自殺未遂者の再企図防止と遺族の支援

①自殺未遂者は、再企図のおそれがある。(厚生労働省 「地域における自殺の基礎資料」より)



②自殺により遺された親族等にとっては、突然のことであり、心理的にも実務的にも準備ができていない状態である。

小牧市の現状と、こころの健康に関する市民意識調査から基本理念、及び基本目標とそれを達成するための基本施策を設定